ISSP ワークショップ

第１回 東大 ISSP･理研 CEMS 連携ワークショップ

https://www.issp.u-tokyo.ac.jp/maincontents/seminar/all2.html?ptype=seminar&pid=21087

ナノスケール物性研究部門　大谷義近

【日程】2024 年 1 月 24 日（水）

【場所】物性研究所本館 6F 大講義室、

【世話人】廣井善二（東京大学物性研究所）有馬孝尚（理化学研究所/東京大学）徳永将史（東京大学物性研究所）中島多朗（東京大学物性研究所）橋坂昌幸（東京大学物性研究所）大谷義近（東京大学物性研究所/理化学研究所）

【講演言語】英語

【参加人数】78 名

1957 年に共同利用研究所として設立された物性研究所(ISSP)は、長年にわたり日本の物性科学研究の中心的存在として貢献してきた。一方、2013 年に発足した理研創発物性科学研究センター(CEMS)は、物理、化学、エレクトロニクスのトップ研究者が集結し、創発現象の学理を解明し、その応用への展開を目指している。両研究所は、将来の人類社会に寄与する革新的な新物質の開発や学理の構築を使命とし、研究を進めている。

今回のワークショップは、国際的な研究開発競争が激化する中、日本の研究力向上のために ISSP と CEMS が協力し、互いに切磋琢磨する良好なライバル関係を築く重要性を認識するために開催された。また、この連携ワークショップを通じて国際的に認知度の高い連携研究を立ち上げ、推進するための研究の芽を見つけることも目的としている。CEMS には外国人研究者が多く在籍していることから、日本人研究者や大学院生だけでなく、外国人研究者や留学生も議論に参加しやすいよう、ワークショップの共通言語を英語とした。

会議は ISSP 所長の開催の言葉に始まり、CEMS あるいは ISSP との共同研究の実績・経験のある双方の研究者が研究紹介を行った後、ホットな研究成果も発表され、多くの議論が交わされた。午後のセッションでは、両研究所の得意とする分野の最近の研究成果が紹介され、強みや研究テーマの共通点を明確にすることができた。また、それぞれの専門知識や経験を結集して新たな研究の方向性について活発な意見交換と議論がなされ、将来新たな連携プロジェクトが立ち上がることが期待されるワークショップであった。会議後、世話人と講演者で意見交換会を開催した。今後、より具体的な協力の展望や新たな研究の展開の構築につなげるためにも、ワークショップを 1 回に留めず ISSP と CEMS で交互に主宰しながら継続していくこととした。

参加者集合写真